



御大典記念

特別展

よみがえる

# 正倉院宝物

再現模造にみる天平の技

Special Exhibition

Celebrating the Enthronement Ceremonies of His Majesty the Emperor

## The Reproduction of Shosoin Treasures

Encountering Tenpyo Craftsmanship Through the Recreation of 8th Century Works

PRESS RELEASE



天皇陛下の御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、  
正倉院宝物の精巧な再現模造の数々を一堂に公開する展覧会を開催します。

正倉院宝物とは、奈良・東大寺の倉であった正倉院正倉に伝えられた約九〇〇〇件におよぶ品々です。  
聖武天皇ゆかりの品をはじめ、その多くが奈良時代の作で、  
調度品・楽器・遊戯具・武器・武具・文房具・仏具・文書・染織品など多彩な分野にわたります。

中には、西域や唐からもたらされた国際色豊かな品々も含まれるなど、  
天平文化華やかなりし当時の東西交流もうかがい知ることができます。

しかし、一三〇〇年近くという長い時代を経て今日にいたる正倉院宝物は、きわめて脆弱であるため、  
毎年秋に奈良で開催される「正倉院展」で一部が展覧される以外はほとんど公開されてきませんでした。

正倉院宝物の本格的な模造製作は、

明治時代に奈良・東大寺で開催された奈良博覧会を機に始められました。

当初、模造製作は修理と一体の事業として取り組まれましたが、

昭和四七年（一九七二）からは宝物を管理する宮内庁正倉院事務所によって  
宝物の材料や技法、構造の忠実な再現に重点をおいた模造製作がおこなわれるようになります。

以来、人間国宝ら伝統技術保持者の熟練の技と最新の調査・研究成果との融合により、  
優れた作品が数多く生み出されてきました。

本展は、これまでに製作された数百点におよぶ再現模造作品のなかから、  
選りすぐりの逸品を一堂に集めて公開するものです。

再現された天平の美と技に触れていただくとともに、

日本の伝統技術を継承することの意義も感じていただきたいと思います。

二〇二〇年春、奈良国立博物館での開催を皮切りに長野、名古屋、沖縄、福岡、新潟、北海道、東京と、

二〇二二年春までに二年間で全国八会場を巡回する予定です。

二〇二〇年一月

# 二〇二〇年の技が、 こまやかに、

※出品作品はいずれも再現された模造です。

# よ

# み

# が

# え

# る

みどころ①

## 逸

### 再現模造の逸品を一堂に集めて公開するおよそ20年ぶりの展覧会

天皇陛下御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、明治時代からおこなわれてきた正倉院宝物の再現模造事業で製作された数百点におよぶ作品の中から、調度品・楽器・染織品・仏具など多彩な分野から選りすぐりの100点近くが出品されるかつてない規模の展覧会です。  
※巡回会場毎に展示作品は一部入れ替わり、また展示作品数も異なります。

みどころ②

## 技

### 人間国宝ら伝統技術保持者の熟練の技に触れる展覧会

およそ1300年の時を経て、正倉院宝物の製作当初の鮮やかな姿が、現代の名工たちの技によってよみがえります。  
また、正倉院宝物に見ることのできる特殊な技法や素材に焦点を当て、模造製作の際の映像や関連資料なども作品とともに紹介し、再現模造事業を通じて継承された日本の伝統技術もご覧いただけます。

みどころ③

## 極

### 技法と芸術性の完全再現を目指した究極の伝統工芸品

明治・大正・昭和・平成と続き今日にいたる再現模造事業では、継承された伝統の技に加え、CTスキャンなどの最新の技術が融合することにより、内部構造までも再現した逸品が次々と製作されています。  
本展では平成最後の年に8年がかりで完成した「模造 螺鈿紫檀五絃琵琶」を筆頭に、近年製作された再現模造作品も紹介します。

現代の名工たちが、伝統工芸と最新の科学技術を融合させて再現した天平美の芸術的深みや品格が最大の見どころです。

column

#### 「正倉院って何？」 正倉院の歴史と宝物について

##### ◎正倉院は、どこ、どのような施設だったのか？

奈良時代に東大寺大仏殿の裏手の小高い土地に設けられた、寺の中心的な倉庫でした。明治時代以降、国の管理となり、現在では宮内庁正倉院事務所がその任に当たっています。

##### ◎正倉院宝庫の特徴は？

三角形の部材を井桁に組んで壁にする校倉造の建物です。北倉・中倉・南倉の三倉からなり、天皇の許可で扉を開閉する勅封倉として極めて厳格に管理され、正倉院宝物を守ってきました。

##### ◎正倉院宝物はどのようなものか？

奈良時代、聖武天皇が崩御した際に光明皇后が東大寺大仏に献納した御遺愛品等を中心とする宝物群です。多種多様かつ国際色豊かな約9,000件の品々が、1300年近く、人々の努力によって良好な保存状態で伝えられてきました。



# 第1章

# 楽器・伎楽ぎがく

正倉院宝物は、聖武天皇の御遺愛品が東大寺の大仏に捧げられたことに始まります。献納された品々は調度品、楽器、遊戯具など多彩です。本章では正倉院宝物の中から様々な工芸技法によって美しく装飾された「螺鈿紫檀五絃琵琶」をはじめとする楽器類の模造をご紹介します。また、大仏開眼会の際に演じられた伎楽の面や衣装などの模造も展示されます。鮮やかな色彩でよみがえった天平の精華をご覧ください。



## 模造 螺鈿紫檀五絃琵琶らでんしたんのごげんびわ

正倉院事務所蔵

『国家珍宝帳』記載の「螺鈿紫檀五絃琵琶」の模造です。原宝物は、螺鈿や伏彩色を施した玳瑁で全面を埋め尽くすように飾った豪華な琵琶で、正倉院宝物を代表する優品として知られています。模造にあたっては、華麗な装飾はもちろんのこと、実際に演奏が可能な楽器として再現することを重視し、8年がかりで完成させました。



## 模造 醉胡王面すいこおうめん

正倉院事務所蔵

醉胡王と呼ばれる役柄の仮面の模造です。醉胡王とは、酔ったペルシアの王のことで、劇中では多数の従者とともに登場し、酔っぱらった所作を演じたとされています。桐材を用いて高い鼻を強調した彫りの深い顔立ちを造り出し、原宝物では失われていた髭や色鮮やかな冠帽が再現されています。

## 模造 黄銅合子

正倉院事務所蔵

仏前で香を焚くための香合の模造です。蓋のつまみ部分が美しい五重相輪の塔形に造られています。模造の製作を通じて、塔には50枚以上の座金が用いられていることや、塔の各層に暈網彩色やガラス玉の装飾が施されていることが確認されました。模造では原宝物ではほとんど失われている装飾を再現しています。

## 第2章

# 仏具・箱と几

奈良時代の社会では、律令制と仏教による護国体制が敷かれました。宮廷では国の統治のための儀式がとり行われ、大仏を擁する東大寺では壮麗な儀礼と仏前への献物が盛んに行われました。正倉院に伝来した、年中行事に關わる儀式具、東大寺ゆかりの仏具や箱・几の数々は、こうした世相を背景につくられたものです。多様な素材・技法が駆使された品々は、たしかに技術と美意識に裏付けられた天平工芸の水準の高さを物語ります。

## 模造 蘇芳地金銀絵箱

正倉院事務所蔵

正倉院には仏前に捧げる供物をいれた献物箱がいくつも伝わっています。それらは東大寺の諸堂塔に捧げられたもので、箱自体に貴重材を用いたり、華麗な装飾が施されました。蘇芳染めで紫檀風に仕上げたこの箱は、金銀泥の文様が不明瞭でしたが、模造によって宝相華唐草のなかで奏楽する童子の姿が鮮やかによみがえりました。



## 第3章

# 染織

養蚕は今から約五く六〇〇〇年前に中国で始まったと言われています。やがて養蚕や絹織物は大陸の東西へと広がり、日本においても奈良時代になると全国的に養蚕が行われていました。絹織物の基本ともいえる平織りの純綾、羅、そして複雑な文様を表した錦など多彩な織り技法による復元品をご紹介します。また『国家珍宝帳』の筆頭に記載された聖武天皇御遺愛の袈裟である「七条織成樹皮色袈裟」ほか袈裟に關わる一連の由緒ある品の模造をご覧ください。



## 模造 七条織成樹皮色袈裟

正倉院事務所蔵

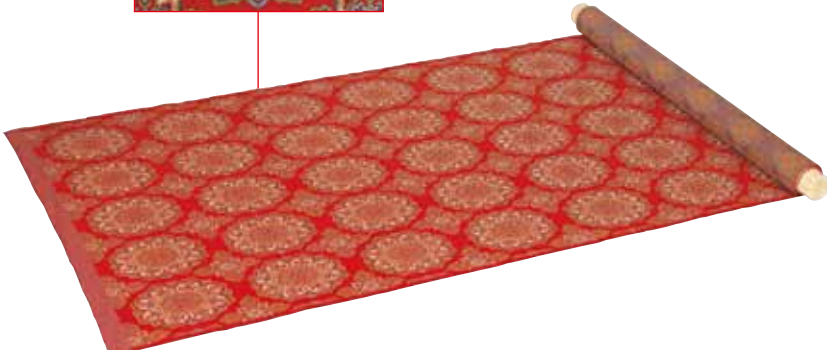
袈裟は、僧侶が衣の上に掛ける法衣のひとつです。宝物名の「七条」は袈裟の形式、「織成」は技法名、「樹皮色」は多色が入り交じる色合いをそれぞれ表しています。原宝物の色合いは2〜3種類の色糸を撚り合わせた糸糸を用いることで表現されており、模造では光学顕微鏡で細部を観察して復元しています。



## 模造 赤地唐花文錦

正倉院事務所蔵

原宝物は、仏殿を荘厳する幡に使われていた錦です。唐花文様は、中国から伝来し、奈良時代に盛行した文様で、最も正倉院らしい意匠のひとつです。緯錦の技法で文様を織り表しています。幅が古代の通常の錦に較べて2倍(約115cm)の広幅で、天平期の高度な織り技術がうかがい知れます。模造の赤色は、皇居内の日本茜の根を用いて染めています。



おうごん るり でんはいのじゅうに りょうきょう  
模造 黄金瑠璃鈿背十二稜鏡

正倉院事務所蔵

鏡背を七宝で飾った鏡の模造です。原宝物は、正倉院に伝わる鏡のうち唯一鏡胎が銀製で、また宝物中唯一の七宝製品でもあります。鏡背は大小計18枚の花弁を組み合わせて宝相華文様を表しています。花弁は銀の薄板に細かく砕いた色ガラスの粉末を盛って焼き付けたもので、それぞれ別々に造って接着されています。

第4章

鏡・調度・装身具

正倉院宝物の種類はじつに多種多様ですが、なかでも鏡をはじめ薫炉・厨子・双六局などの調度品や、帯・刀子などの装身具は、その技術の高さにおいて宝物を代表するものと言えます。こうした宝物を、材質・形状・文様・技法等あらゆる面で忠実に再現することは、天平の工芸品の息吹をいまに伝えるだけでなく、後世の日本の工芸を発展させる原動力ともなりました。

ら でん ぎよく たい ばこ  
模造 螺鈿玉帯箱

東京国立博物館蔵

黒漆塗地に螺鈿や金平脱、伏彩色を施した水晶の嵌装によって、唐花や飛雲などの文様をあらわした華やかな箱です。原宝物は「紺玉帯」をおさめていた「螺鈿箱」で、宝物中でも希少な漆地螺鈿のひとつです。囀の表装である色鮮やかな花卉文暈網錦は、経錦という古い技法で織られています。



第5章

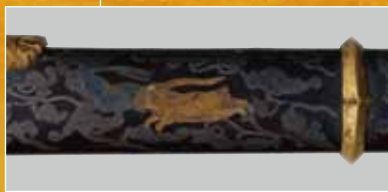
刀・武具

正倉院は古代の武器・武具の宝庫でもあります。争乱の続いた奈良時代、正倉院から武器が出蔵されることもありました。五五口残る大刀のなかには、装飾を凝らした儀仗用の大刀がある一方、実用本位の大刀も少なくありません。多数伝わる矢は、矢羽根の多くが失われていますが、模造により当初の姿が復元されました。武器・武具が示す華麗な装飾はもちろん、優れた機能美の世界をご覧ください。

きん ぎん かざりのおう とう  
模造 金銀荘横刀

奈良国立博物館蔵

明治8年(1875)、奈良博覧会社が正倉院宝物を模して製作した大刀・横刀のうちの1口です。原宝物の「金銀荘横刀」は、鞘全体に金銀の平脱技法で唐草・飛雲・走獣の文様を表し、花文を線刻した金銅製金具を要所に配した装飾性豊かな作例です。把は沈香製。刀身は鑄造りで、反りのない簡素な形姿を示しています。



きん ぎん でんかざりのから た ち  
模造 金銀鈿荘唐大刀

正倉院事務所蔵

『国家珍宝帳』記載の「金銀鈿荘唐大刀」の模造です。華麗な装飾から、聖武天皇が用いた儀仗用の大刀と考えられます。把は鮫皮で包み、鞘には研出蒔絵と同様の技法で鳥獣や唐草を描きます。唐草文様の透彫金具には水晶やガラス玉を嵌めています。刀身は切っ先を両刃につくる様式で、盛唐期に流行しました。



# 筆墨

ひつ ぼく

奈良時代の役所は文書によって運用されていた。文書行政の実態は、六六〇巻余り伝わる正倉院文書にうかがうことができます。正倉院文書は東大寺写経所が伝えた帳簿群が中心ですが、よそで不要になった紙の裏を使うケースが多かったことから、多種多様な文書が残りました。展示では多色コロタイプ印刷による精緻な模造によって、正倉院文書の全体像に迫ります。



## 模造 続修正倉院古文書 第3巻

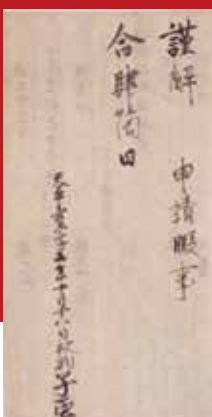
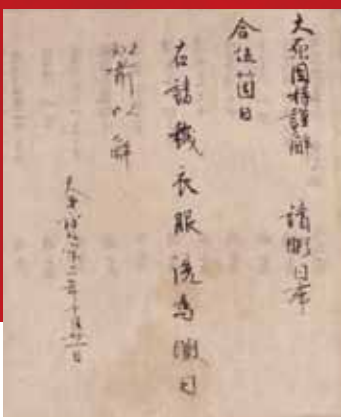
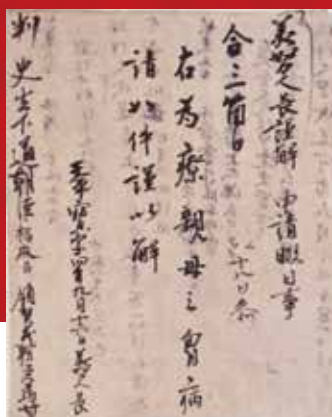
国立歴史民俗博物館製作・正倉院事務所蔵

大宝2年(702)の御野国加毛郡半布里戸籍を取めた正倉院文書の模造です。原宝物は現存する最古の戸籍のひとつです。男性・女性にわけて3段に書き出す書式は、同年の西海道の戸籍と異なり、より古い時代の書式を残しています。なお、戸籍の保存期間後は反故となり、裏面は写経所の帳簿に利用されています。

## 模造 続修正倉院古文書 第20巻

国立歴史民俗博物館製作・正倉院事務所蔵

8世紀後半、東大寺写経所で働いていた写経生たちの休暇願いを集めた巻の模造です。休暇の理由はさまざまで、汚れた衣服を洗うためや、母の看病のため、あるいは神祭りのためと記されています。当時の人びとの仕事と暮らしの一端がうかがい知られる貴重な資料です。



### column

## 「五絃琵琶はこうして再現された！」

### 正倉院宝物の復元模造の方法



主材は希少材の紫檀です。乾燥による歪みが生じないように養生期間を設けながら段階的に加工しました。装飾には夜光貝による螺鈿や、現在では輸入が禁止されている玳瑁たいまいが用いられています。国内の良材を確保して、約600枚にもおよぶ装飾部材を加工しました。様々な素材や技法が複合的に用いられているため、多くの作り手が連携する必要があり、完成までに8年もの年月を費やしました。



宝物の形状に成形した槽の部材(紫檀)



装飾用の彫り込みを施した槽の部材(紫檀)



槽の部材に嵌め込む装飾部材(夜光貝)



裏面に文様を描いた落帯の部材(玳瑁)

# 御大典記念 | 特別展 |

## よみがえる正倉院宝物

### — 再現模造にみる天平の技 —

奈良国立博物館での開催概要

- 【会 期】 2020年4月18日(土)～6月14日(日)  
【会 場】 奈良国立博物館 東・西新館 〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内)  
【主 催】 宮内庁正倉院事務所、奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局  
【学 術 協 力】 九州国立博物館  
【後 援】 日本工芸会  
【協 賛】 ダイキン工業、竹中工務店、ライブアートブックス  
【協 力】 日本香堂、仏教美術協会
- 【休 館 日】 月曜日 ※ただし、5月4日(月・祝)は開館  
【観 覧 料 金】 当 日 | 一般1500円、高校・大学生1000円、小・中学生500円  
前売・団体 | 一般1300円、高校・大学生 800円、小・中学生300円  
※前売り券の販売開始は2月中旬を予定しています。

【奈良国立博物館ホームページ】 <https://www.narahaku.go.jp/>

【展覧会公式サイト】 <https://shosoin.exhibit.jp/>

【一般のお客様からのお問い合わせ】 050-5542-8600(ハローダイヤル)

【報道関係お問い合わせ】 「よみがえる正倉院宝物」広報事務局(株式会社ミュージズ・ピーアール内)

〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 赤坂レジデンシャル770

TEL:03-6804-5045 FAX:03-5785-2627

E-mail:info@musepr.co.jp 担当:大山、小林、末田

巡回会場の会期

- 2020年 7月18日(土)～8月30日(日) 長野:松本市美術館  
2020年 10月3日(土)～11月23日(月・祝) 名古屋:松坂屋美術館  
2021年 2月9日(火)～3月28日(日) 沖縄県立博物館・美術館  
2021年 4月20日(火)～6月13日(日) 福岡:九州国立博物館  
2021年 7月3日(土)～8月29日(日) 新潟県立近代美術館  
2021年 9月15日(水)～11月7日(日) 北海道立近代美術館  
2022年 1月26日(水)～3月27日(日) 東京:サントリー美術館

※巡回会場の会期は予定です。

表紙の作品キャプション:左上より時計回りに、

●模造 赤地唐花文錦(文様部分)、●模造 金銀細工唐大刀(部分)、○模造 螺鈿玉帯箱(部分)、

●模造 螺鈿紫檀五絃琵琶の螺鈿に線彫りを施している様子、

●模造 黄銅合子(部分)、●模造 螺鈿紫檀五絃琵琶裏、●模造 黄金瑠璃細背十二稜鏡 背

※●は正倉院事務所蔵、○は東京国立博物館蔵